

半分に裂いて、柄の部分が黒いのが特徴



ツキヨタケ 誤食に注意！
(おいしそうに見えますが猛毒です)

県民の森 だより 10月号 2018

発行 **宮城県 県民の森管理事務所** TEL&FAX 022-255-8801
〒981-0121 宮城県宮城郡利府町神谷沢字菅野沢 41
(指定管理者) 特定非営利活動法人 宮城県森林インストラクター協会

入園料：無料
利用時間：4月～10月/9時～16時30分
11月～3月/9時～16時

今年は秋の到来も早く、9月中旬から紅葉が始まりました。

園内の紅葉は毎年の事ですが、中央記念館の周囲から赤や黄色に色付きが始め、次第に園内全体に広がります。日々変化する園内を、ゆっくり散策されることをお勧めいたします。(所長：蜂谷仁)

木の実 いろいろ

中央記念館館内では、いつでも楽しめるネイチャークラフトコーナーが人気です。クラフトの材料として使っている、いろいろな木の実たちをご紹介します。さて、全部分かりますか???

クラフトに使うときはうらを
グルーガンでとめます



ヒマラヤスギ

写真右上が熟した松ぼっくりで、熟すにつれて、果鱗(ひらひらの部分)が軸から落ちていき、最後にバラの花のような上部が残ります。

皮の厚いもの、薄いものなど 20種類ほどあるそう



ヒッコリー

北アメリカ原産で、この辺りではあまりない木の実です(毎年Nさんに拾ってきて頂いております)。アメリカでは材も良く使われる身近な木で、童話などにもしばしば登場します。



割ると中身は
ほぼクルミ
(食べられますが
小さいので
取出すのが大変)



コナラ

コナラの殻斗(帽子の部分)はうろこのような模様、利府町の町木でもあるシラカシは、しましま模様の特徴です。

まんまるクヌギのどんぐりはクラフトでも大人気。殻斗は細長くて肉厚、髪の毛代わりをしたり、鳥の巣に見立てたり、使い方は工夫次第で



シラカシ



クヌギ

す。ちなみにカシワのどんぐりは2回りほど小さく、殻斗はふさふさと柔らかです。

今月のけんみんのもり写真館 スタッフが見つけたしぜんのはなとこま



オヤリハグマ (キク科)
御槍自熊

名前は頭花が昔の大名行列で振りかざした御槍の穂に似ていることによります。本種の特徴は茎中部の葉が3中裂することです。ハグマの種類は国内で8種以上、当地方ではキッコウ・オクモミジ・オヤリがほとんどです。ハグマ(白熊)はチベットに住むヤクの尾毛のことで。(駒野)



シオガマ (ハマウツボ科)
小塩竈

シオガマの意味は、製塩用の釜で、これが浜辺の美しい景物であることから「浜で美しい」を「葉まで美しい」としゃれてつけられたようです。製塩作業はきつい仕事ですが、昔の知識人には美しいと映ったようです。花の1つ1つは小さいが淡紅紫色で美しい。全体に繊毛が多く、さわるとバタバタします。(駒野)



ヤクシソウ (キク科)
薬師草

名前は薬師堂のそばで最初に見つかったから。根生葉が薬師如来の光背に似ているとか、食べられるが苦いので薬になると思われて、薬師草、など諸説があります。“薬”の名前がありながら薬効はほとんどないそうです。この花が盛りを迎える頃、秋の深まりを感じます。(駒野)



センダイトウヒレン (キク科)
ナンブトウヒレン

本種はオオダイトウヒレンの変種で、分布は関東以北です。やや濃いピンクの頭花を、散房状に多数つけています。トウヒレン(塔飛廉)の名は、細長い形姿のセイタカトウヒレンの花序を、塔に見たてたものらしい。また、飛廉とは、中国の想像上の鳥の名前です。(駒野)

県民の森名木紹介 vol.47 クマノミズキ

7月初め、3号幹線の北はし付近を通った時に、樹冠に花を付けた一本の樹に気がしました。花の少ないこの時期、地味ながら良く目立ちます。クマノミズキです。仲間のミズキに比べ1か月は



花時期が遅れる事で区別は比較的簡単です。

暖地に多い種との事ですが、園周辺にも大木に育った立派な樹を所々で見ることが出来ます。(工藤)



カワバナ (カワバナ科)

ゲンジボタルやハイケボタルなどの水生幼虫のエサになることで有名です。園内の小川では比較的良好に見かけられますが、人工的に飼育することは非常に困難で、ゲンジボタルを育てるよりも、カワバナが育つ環境を作ることのほうが、何倍も労力を必要とするようです。(入岡)



イシノミの仲間

巡視中にこの虫を見かけた時は、森の中にエビ?!と一瞬驚きましたが、翅を持たない無翅昆虫という、原始的な昆虫の仲間です。体は鱗粉に覆われ、長い触角と3本の尾を持ち、木や石の上で、藻類などを食べてひっそりと過ごします。(入岡)

イベントのスケジュールなどは裏面「10月・11月のイベント情報」をご覧ください